

祝 移動式解体処理車 納車  
高知県梼原町



ゆすはら町  
議会だより

平成29年10月20日

第101号

# 四万十源流

題字 議長 土釜 清



# 9月 定例会

議会9月定例会は、9月11日から15日の5日間の会期で開催した。

議案審議では、平成28年度各会計歳入歳出決算の認定をはじめ、平成29年度一般会計補正予算、梶原町複合福祉施設の設置及び管理に関する条例、梶原町立図書館の設置及び管理に関する条例の制定、工事請負契約、損害賠償請求に関する和解及び損害賠償の額の決定など12件の議案について本会議で審議を行い、すべての議案について原案どおり可決した。

また、健全化判断比率、資金不足比率について報告があった。

## 表紙写真の紹介



日本で最初に導入された移動式解体処理車「ジビエカー」

## 行政報告



行政報告する矢野富夫町長

町長は、平成29年6月定例会以降における諸般の行政について、次の項目の報告をした。

- 入院患者の誤嚥による窒息死亡事故の和解について
- 公務災害の認定について

## 総務課関係

- ・梶原町選挙管理委員会定時登録について
- ・ネパール連邦共和国からの来町について
- ・鬼北町斎場運営関係意見交換会について

## 企画財政課関係

- ・集落活動センター大学インテンシティブ等の受け入れ
- ・仮称「ゆすはら森の中の丸ごと図書館」及び「ゆすはら複合福祉施設」の愛称決定について

- ・移動式解体処理車納車式典の開催について
- ・第19回日中韓3か国地方政府交流会議への参加について

## 〈目次〉

行政報告  
2

9月定例会での決定  
3～5

決算連合審査  
6～8

委員会調査報告  
9～11

各種意見書  
12

心のふれあい広場  
14

## 保健福祉支援センター関係

- ・敬老月間について
- ・ゆすはら子育て世代包括支援センター開所式実践会議について

## 環境整備課関係

- ・本も谷地すべり防止区域内崩壊対策について
- ・林道災害査定結果について

## 産業振興課関係

- ・農業委員会について

## 教育委員会関係

- ・町内教育機関の現状について
- ・義務教育学校制度について

# 議案審議の概要

9月定例会に提案され審議した議案についての概要（質疑は抜粋）

## 予算

### 〔一般会計補正予算（第2号）〕

歳入歳出それぞれに5億5千754万7千円を追加し、その総額を66億3千754万7千円とするもの。主な内容は次のとおり。

#### ●総務費

住民票及びマイナンバーカードに旧姓を併記するためのシステム改修委託料 500万円  
 補欠選挙に伴う梶原町議会議員選挙費 373万7千円  
 地震から住民の命を守る木造住宅耐震事業 135万円  
 「ゆすはらジビエの町づくりプロジェクト」を立ち上げ、経営、販売、流通体制を検討するための会議の開催、視察研修にかかる補助金 138万4千円

梶原ベレット油圧ショベルの修繕負担金 183万1千円  
 集落活動センターゆすはら西が梶原町有害鳥獣被害対策協議会に加入したことにより、県から直接交付金を受けることによる交付額の減額 ▲3千242万2千円  
 集落活動センター推進事業補助金 1千459万円  
 その他 1千56万円

#### ●民生費

介護保険制度及び障害者総合支援法の改正に伴うシステム改修費 392万3千円  
 その他 8万3千円

#### ●衛生費

雲の上のプールの屋根南側及び壁面の改修工事費 375万8千円  
 その他 221万6千円

#### ●農林水産業費

申請件数追加に伴うせまち直し等の農業基盤整備等事業補助金 454万5千円  
 横貝肉用牛増殖育成センター畜舎整備事業の外溝工事の追加及び翌年度の肉用牛導入の前倒しによる梶原町畜産クラスター協議会補助金 5千22万8千円

土づくりセンターの発酵炉ギヤモーターの取り換え等の修繕料 966万円  
 町直管造林において作業道新設や間伐実施による育林事業委託料 407万6千円  
 林道舗装の補助金 確定に伴う工事請負費 2千830万5千円  
 その他 443万円

#### ●商工費

申請者追加による担い手支援事業補助金 270万円

#### ●土木費

申請件数の追加によるふれあい道路補助金 1千233万6千円  
 がけくずれ住家防災対策事業の工事請負費 9千850万円

がけくずれ住家防災対策事業の補助金 2千920万円  
 その他 121万円

#### ●教育費

梶の木寮ベレット焚アロエースの修繕料 162万円  
 その他 95万9千円

#### ●災害復旧費

林道九十九曲線他林道災害3件の工事請負費 1億4千164万5千円  
 その他 427万7千円

#### ●諸支出金

繰越金の法定積立金として 財政調整基金 7千142万3千円  
 梶原ならではの保健・医療・福祉・介護の充実に必要な財源として、保健文化社会福祉基金 4千670万6千円  
 前年度充当事業の精算により 公共施設整備事業基金 2千880万8千円  
 ゆすはら21夢・未来基金に 90万9千円

可決（全員賛成）

## 9月定例会での決定

問

二宮近雄

スズメバチ等の駆除について町内のあちこちから相談があったが、皆さんが大変困っている状況である。この問題を解決するには集落活動センターが収益事業として行つてはどうかと考えるが町長はどのように考えるか。

答

町長 矢野富夫

私も話を聞きながら同じ考え方をしたところである。今年度に集落活動センター連絡協議会を設置しているので、協議会の開催を要請し、実現に向けて行動をしていきたい。なお、本年度の予算の中で流用できれば利用することも考えながら取り組んでいきたい。

【国民健康保険特別会計補正予算（第1号）】

主な内容は、全国国保地域医療学会へ参加の旅費8万3千円、平成28年度事業の精算に伴う療養給付費負担金の超過交付額分の償還金352万円を追加し、その総額を6億5千60万3千円とするもの。

可決（全員賛成）

【後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）】

主な内容は、平成28年度事業の精算に伴う後期高齢者広域連合負担金68万8千円、過年度保険料還付金14万4千円を追加し、その総額を6千283万2千円とするもの。

可決（全員賛成）

【介護保険事業特別会計補正予算（第1号）】

主な内容は、介護保険制度改正に伴うシステム改修委託料214万1千円、平成28年度事業の精算に伴う国、県負担金及び支払基金交付金の超過交付額分の償還金他で975万2千円を追加し、その総額を5億6千589万3千円とするもの。

可決（全員賛成）

【下水道事業特別会計補正予算（第1号）】

主な内容は、浄化槽膜分離装置更新に伴う工事請負費2千240万円を追加し、その総額を1億1千220万円とするもの。

可決（全員賛成）

【病院事業会計補正予算（第1号）】

主な内容は、医師に対する宿日直手当の見直しについて、高知県へき地医療協議会総会において承認されたことに伴い289万円を追加し、その総額を5億5千898万3千円とするもの。

可決（全員賛成）

条例

【梶原町複合福祉施設の設置及び管理に関する条例の制定について】

町民の皆様の一生涯に慣れた地域で安心して暮らし続けたいという思いを実現するために、半世紀にわたる「福祉村宣言」を心に刻み、健康でいきいきとした生活が送れるよう、健康づくりや交流の場を提供するとともに、高齢になっても梶原で安心して暮らし続けるための「福祉のまちづくり宣言」に基づいた福祉の総合的な拠点施設としてその設置及び管理について新

たに条例の制定をしようとするもの。

可決（全員賛成）

【梶原町立図書館の設置及び管理に関する条例の制定について】

「自信あふれる梶原人を育てる教育の確立した社会」実現に向け、町民の教養、調査研究、レクリエーション等に資するための生涯学習拠点施設及び子どもから高齢者までが楽しみながら「人と人をつなぐ場」として、町立図書館の設置及び管理について新たに条例の制定をしようとするもの。

可決（全員賛成）

その他

【工事請負契約について】

「平成28年度（繰）小さな拠点集落活動センター推進事業（地域交流滞在拠点施設改修事業）旧越知面小学校改修工事」について、入札結果により請負契約を締結するため「議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条」による議決を求めるもの。

- ・ 契約の金額 8千359万2千円
- ・ 契約の相手方 株式会社 四万川総合建設

可決（全員賛成）

【損害賠償請求に関する和解及び損害賠償の額の決定について】

平成28年6月11日に梶原病院で入院中の患者が、昼食を自ら摂取し、誤嚥して窒息、死亡した事故に関する損害賠償請求に関する和解及び損害賠償の額の決定について、地方自治法第96条第1項第12号及び第13号

の規定により議決を求めるもの。

可決（全員賛成）

### 報告事項

〔平成28年度梶原町健全化判断比率について〕  
〔平成28年度梶原町資金不足比率について〕



平成23年度の地区懇談会(東区)

### 発委

〔梶原町議会基本条例の一部改正について〕

過去の懇談会開催状況については、平成23年度に6会場（参加者196人）、平成25年度に1会場（参加者25人）、平成26年度に5会場（参加者112人）で実施してきたが、いずれも議会から要請を行い実施してきたものであ

る。しかし、27年度及び28年度については、議会から要請をしたものの、各区の受け入れ体制が整わず今日に至っている。このことを踏まえ、梶原町議会基本条例第13条を適用し今回改正をするもの。

議会運営委員会 提案

可決（全員賛成）



平成23年度の地区懇談会(越知面区)



平成23年度の地区懇談会(四万川区)

9月定例会での決定

# 平成28年度 各会計決算を認定

総額 106億504万37円

一般会計

特別会計

病院会計

9月定例会での決定(決算認定)

## 決算審査

平成28年度各会計歳入歳出決算は、全会計合せて106億504万37円(重複計上含む)にのぼり、総務教育厚生常任委員会に付託し産業建設常任委員会との連合審査を行った。

審査では、代表監査委員から決算審査意見の報告があり、その後、会計ごとに審査を行い、委員長から「全会一致をもって認定すべき」との報告があり、採決の結果全員一致で認定した。

## 監査委員審査所見

### ○基金について

地方自治法第2条第14項に規定されている「地方公共団体は、その事務を処理するに当っては、住民の福祉の増進に努めるとともに、最少の経費で最大の効果を挙げるようにしなければならない」ということについての職員の取り組みによって、各種基金積立額合計は、118億8千311万6千41円となっている。

### ○病院事業について

平成28年度決算においては、入院患者数は増加、外来患者数は減少となっているが、収入額は増額(前年度比医業収益1.3%増、医業外収益8.6%増)となっている。

このことについては、医療圏域人口の減少、住宅又は施設での看取りを積極的に行なったことなど様々な要因があると考えられるが、現状の経営から見ると、四万川、松原の2診療所を含め病院事業経営を取り巻く環境は引き続き厳しい状況であり、特に過疎地域の病院では、今後の事業経営には想像を超える難しさがあるものと思慮する。病院事業の健全経営を維持し安定的な利益を確保するために、病院経営の一翼を担う事務局の役割は極めて重要である。すべ

## 委員会審査報告

の職員が経営状況に対する理解を深められるよう事務局として積極的に病院経営に関わり、病院全体で一丸となって経営改革、経営健全化に取り組みたい。

総務教育厚生常任委員会主催の決算連合審査については、決算書と併せて主要施策の成果を説明する事務報告書及び監査委員の意見を参考に慎重に審議を行ったところである。

歳出決算額については、目的に添い、有効かつ効率的な事業展開をしているということ、さらに、その財源確保へ向けた最善の取り組みができていたことが判断できる決算になっている。しかし、脆弱な自主財源力であるというところは変わりなく、今後も、国・県の動向に留意され補助金等をはじめとする歳入の確保に努めていく必要がある。

## 賛成討論(抜粋)

全体をとおして諸施策の充実を評価し、各会計歳入歳出決算については、適正であると認められるため総務教育厚生常任委員会では、全会一致をもって「認定」すべきものと決定した。

二宮近雄  
基金においては、矢野町長就任時の75億円から、現在は決算を見てみますと、120億円の決算となりました。

16倍のいわゆる大きな基金の積み立てになったわけであります。そういう中であって、町道松原線の改良工事、これは現在33億円かかると言われておりますけれども、一般財源では2億円であります。そして、図書館あるいは福祉施設についても、27億円のうちの22億円が国からの補助金をいたただくというような懸命の努力をしてきたわけであります。

この大きな国・県からのお金をいただいたのは、山口町政以来50年続く、町長・副町長は一体でなければならぬ。それが将来にわたって、梶原町の素晴らしい発展につながるということから、お互いにきちっとした人脈を作り、そして一人ひとりの努力によって、この国・県から信頼を受けて、本日のこの基金となってきたというわけであります。

平成28年度の決算においては、この誰もが敬うような、そして高知県内でもこんな決算はないだろうと思うところであります。そういう意味において、町長以下、各幹部職員にも敬意と感謝を申し上げる次第であります。これからも一生懸命、皆さん頑張っていたいて、この梶原町が日々発展し、梶原町の皆さんが幸せになるように、これからもご努力を願いたいということをお願いいたします。賛成の討論といたします。

# 町の貯金と借金の状況

9月定例会での決定(決算認定)

| 平成28年度末基金(貯金)の状況 (単位:千円) |           |                |           |
|--------------------------|-----------|----------------|-----------|
| 会計                       | 区分        | 基金額            |           |
| 普通会計                     | 積立基金      | 財政調整基金         | 830,016   |
|                          |           | 減債基金           | 1,750,430 |
|                          |           | 公共施設整備基金       | 2,681,752 |
|                          |           | 保健文化社会福祉基金     | 2,503,022 |
|                          |           | 森と水の文化のまちづくり基金 | 1,626,445 |
|                          |           | ゆすはら21夢・未来基金   | 1,835,965 |
|                          |           | 造林事業基金         | 16,338    |
|                          | 定額運用基金    | 維新の門顕彰基金       | 3,263     |
|                          |           | 土地開発基金         | 149,322   |
|                          |           | 魚族保護基金         | 2,500     |
|                          |           | 水源涵養事業基金       | 3,473     |
|                          |           | 上西の川水源確保事業基金   | 10,000    |
|                          |           | 肉用牛育成基金        | 49,945    |
|                          |           | 国保             | 財政調整基金    |
|                          | 高額医療費貸付基金 | 6,959          |           |
| 介護                       | 財政調整基金    | 27,686         |           |
| 病院                       | 減債積立金     | 205,000        |           |
| 風ぐるま                     | 環境基金      | 44,897         |           |
|                          | 合計        | 11,883,116     |           |

| 平成28年度末公債費(借金)の状況 (単位:千円) |              |           |         |
|---------------------------|--------------|-----------|---------|
| 会計                        | 区分           | 公債費額      |         |
| 普通会計                      | 一般公共事業債      | 133       |         |
|                           | 一般単独事業債      | 103,663   |         |
|                           | 教育福祉施設等整備事業債 | 5,300     |         |
|                           | 辺地対策事業債      | 758,768   |         |
|                           | 災害復旧事業債      | 132,813   |         |
|                           | 過疎対策事業債      | 3,639,881 |         |
|                           | 財源対策債        | 18,669    |         |
|                           | 臨時財政特例債      | 0         |         |
|                           | 減税補てん債       | 13,788    |         |
|                           | 臨時税収補てん債     | 1,206     |         |
|                           | 臨時財政対策債      | 130,508   |         |
|                           | その他          | 0         |         |
|                           | 簡水会計         | 簡易水道事業債   | 671,117 |
|                           |              | 辺地対策事業債   | 418,377 |
| 過疎対策事業債                   |              | 25,381    |         |
| 農集会計                      | 下水道事業債       | 183,159   |         |
|                           | 特例措置分        | 0         |         |
| 下水会計                      | 過疎対策事業債      | 14,908    |         |
|                           | 下水道事業債       | 402,887   |         |
|                           | 特例措置分        | 0         |         |
| 病院会計                      | 過疎対策事業債      | 44,712    |         |
|                           | 病院事業債        | 350,430   |         |
|                           | 過疎対策事業債      | 31,631    |         |
|                           | 合計           | 6,647,331 |         |

## 町民一人当たりの負担金額及び目的別決算額

|       |         |
|-------|---------|
|       | 税金負担金額  |
| 一人当たり | 82,253円 |

町民一人当たりの一般会計歳出決算額 1,891,325円 (人口3,608人 平成27年国勢調査)

|                         |                         |                         |                            |   |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------|----------------------------|---|
| <b>総務費 584,765円</b><br> | <b>民生費 203,093円</b><br> | <b>衛生費 117,028円</b><br> | <b>農林水産業費 145,744円</b><br> | <b>商工費 17,895円</b><br>  |
| <b>土木費 255,278円</b><br> | <b>消防費 35,070円</b><br>  | <b>教育費 84,841円</b><br>  | <b>災害復旧費 71,060円</b><br>   | <b>議会費 14,528円</b><br><b>公債費 221,935円</b><br><b>諸支出金 140,090円</b><br> |

# 平成28年度 決算連合審査(抜粋)

# 意見質疑を今後にかして

## 一般会計―歳入―

◎ふるさとづくり寄付金  
について

問 下元秀俊

本年も半年くらい経過しているが、現在までの寄付金の額を聞く。また、返礼品については、地域の商品づくり、物づくりにつながるということ、昨年来、町内各団体へ商品開発に関するPRや補助金の案内など活動してきているが、今の取り組みの状況はどうなのか。

答 総務課長

今年度の状況、またこれまでのは状況は、平成27年度から返礼品をはじめ、またホームページのリニューアルを含め、実施した結果、平成27年度に46万1千円と、その前

の平成26年度の25万円から、大幅に増加している。

そして、平成28年度は「ふるさとチョイス」、「ふるぽ」というふるさと納税サイトの方にも登録し、723万6千円というところで、毎年伸びている状況である。

答 産業振興課長

産業振興という面に関しては、基本的に商工会が中心となって取り組んでいる。通年安定供給ができる牛肉、それと季節的なものとして対応できる物産等、さまざま検討しており、係長クラスでどういうものができるといふのを、会を持ちながら対応している。今後、新たなものについては、しっかりと考えていきたい。

## 国保特会

◎保険税、保険料について

問 市川岩亀

来年度から国保の財政運営が市町村から県に移管されるとの報道があり、従来の保険料よりも上がるのではないかと心配をしている。各市町村の医療費に準じて積算をするというふうにも示されているように、その保険料の額について、今後、来年度予算の作成に入るわけですが、どういうふうに影響するのか。

答 保健福祉支援センター長

国の方は、県下統一な保険税の徴収を求めているところであるが、高知県の場合は医療機関の偏在というものが、あり、

県東部の方の医療費が高く、県西部の方の医療費が低いというところになっている。所得の格差、こちらのほうも非常に多くあり、高知市の方に一極集中をしているという

ような県下的な構造もあることから、医療費水準と所得水準、こちらのほうを掛け合わせて、保険料の算定をしていくというところで高知県の方が、先日決定をしたところである。

今後、保険税額がどれくらい集めてくださいますか、そこについては、現在検討中であり、まずは概算の概算が今年の11月末ぐらいに示される予定になっている。

保険料が上がるか上がらないかというところであるが、平成20年度後期

高齢者医療が始まって以来、上げていない。基金も今のところ1億3千万くらいあり、毎年切り崩していても1千万から

2千万円ぐらいの切り崩しで、何とか保険税を上げないように工夫をしているところである。



決算連合審査状況



# 農畜林業は基幹産業である。 将来ビジョンを検討する時は今!!

産業建設常任委員会委員長 下元秀俊

## 調査の目的

本町の基幹産業である農畜林業の振興・発展は地域づくりにおいて重要な課題である。過疎、高齢化、少子化という厳しい状況の中、畜産においては新たに畜産公社の運営がスタートしたところである。これにより、本町の農畜林産業は、新たな成長への段階に進んできた。甘トウガラシ、ミョウガの園芸農業、多品目野菜、原木椎茸、カルスト牛の畜産と複合経営の基礎的要素が整ってきた。今回は特に農畜林業に取り組んでいる農家を調査し農業振興に繋げていく。

### 調査日

平成29年8月23日

### 調査先

梶原町越知面地区農家  
森田呂弥  
吉野 毅  
玉川歳倍  
川上厚志

(敬称略)

## 調査の内容

### 〔現状と課題〕

#### ○ミョウガ

本町においては、売上収益において高収益が望める品目である。近年の消費拡大と産地リレーにより安定的な経営環境になっている。設備投資、暖房費のコストは高いが、今後とも成長が見込める有望品目である。経営課題として施設設備の老朽化により近年修繕費が上昇してコストの増加になってきて収益を圧迫してきた。

#### ○甘トウガラシ

13aの甘トウガラシの施設栽培を中心に、とう

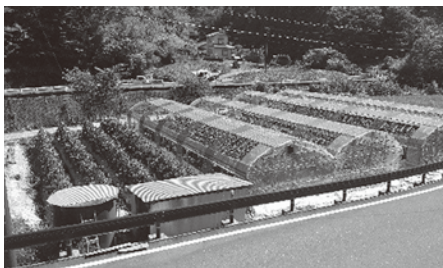


生産農家者の話を聞く委員

もろこし、落花生、ネギ等の露地栽培を合わせて1ha以上を栽培する中核農家である。労力は地域の女性を雇用し経営しており、地域農業の維持、地域の雇用確保に貢献している。課題としては、施設栽培での高温障害による夏場の収量低下と販売価格の低迷、人件費の負担により収益が低い。

#### ○椎茸

一時の風評被害による価格低迷から、現在は販売価格も高位に安定した経営環境になっているが、天候不順による生産量と品質の低下が収益の伸びを抑えている。また、原木の安定供給にも課題



甘トウガラシの栽培

があることと、原木であるがゆえに作業も人力に頼る事が多く、肉体的な負担が大きく規模拡大が困難な一因となっている。

#### ○畜産

定年前に帰郷し、畜産(繁殖牛)、椎茸、甘トウの複合経営に取り組んでいる。繁殖は飼料代も低く抑えられる。また、近年の和牛の需要拡大と生産減少によって子牛の販売価格は高位安定していること、加えて夏山冬里方式によるカルスト放牧も大きなメリットである。さらに、実績を積み上げて後継者育成に繋がりたいという。

## まとめ

後継者の育成が進まない中、越知面地域ではUターン・Iターンに加えて地元若者の転業も増加しており、園芸作物に加えて特産である椎茸栽培、伝統的な畜産への就農が進んできている。非常に頼もしく、本町の農

畜林業の振興に大きな希望をつないでいる。

しかしながら、後継者、新規就農者の確保・育成が必要不可欠である。それぞれに課題を抱えながら家族とともに努力し、また、地域雇用をしながら経営努力をされている。中核的な人材と経営環境が追い風となっている。今が農畜林業振興の絶好の機会である。みなさんの共通認識として、作業の協業化と雇用を含めた後継人材の育成、経営の法人化など、今後の発展のためには検討が必要である。また、集落活動センターに営農部会を設置し、地域で取り組んでいることは、農業経営のモデルとしても大いに期待できる。

### 構成委員

副委員長 中岡俊輔  
委員 土釜 清  
委員 市川岩

# した福祉の実現へ

総務教育厚生常任委員会委員長 西川慶男

## 調査の目的

梶原町社会福祉協議会においては、設立されてから4年目をむかえ、さらなる多様な福祉ニーズに応えるため、関係機関と協力しながら地域の特性を踏まえ、創意工夫をこらして地域福祉事業に取り組みたいところである。そうしたなかで、各職員を地域に配属する「地域福祉コーディネーター」においては、保健福祉支援センターをはじめ関係機関と連携を図りながら総合相談機能の向上、目的を意識したアウトリーチ活動が行われている。これまでの実績と現在の状況・問題点、また今後の展望を把握するため調査を行う。

また、平成30年4月に開所がせまる、ゆすはら複合福祉施設の職員体制の整備、研修状況、運営に向けた各種取り組み状況もあわせて調査するものである。

## 調査の内容

### ①各区における社会福祉協議会職員の取り組みについて

まず事務局長より梶原町社会福祉協議会の事業概要説明を受け、その後、各事業ごとの説明を受けた。特に今回の調査テーマであった、アウトリーチ（訪問活動）について詳細な説明を求めたところである。

アウトリーチとは、簡単に言うと「手を差しの

ばす」という意味で、自発的に援助を求めてこない人に対するアプローチの方法であり、地域に積極的に出て対面し潜在的なニーズを表に出せるよう援助していくことである。区によっては訪問回数にはばらつきはあるものの、各職員が地域福祉コーディネーターとして、それぞれが担当区を決めて、戸別訪問、座談会、勉強会、地域の行事等へ積極的に参加し、活動がなされていた。



社協事務所内において聞き取り調査

### ②29年度新規採用職員の研修状況について

平成28年2月に本委員会が調査し提言していた人材確保、人材育成については、施設設立準備室を中心に、平成29年度には13名の新規職員を採用し、看護師、介護士、管理栄養士等の人材を確保されているところであった。全国的にみても福祉

どこまで踏み込んで関わりをもつかという問題はあるが、例えば問題解決が自らではできず難しい状況に陥っている人、支援の必要性を感じていない人、様々な理由により他者からの関わりに対して抵抗感のある人など、こういった人びとのニーズを掘り起こすには、さらに踏み込んだアウトリーチ活動を行っていく必要がある、自ら支援を求めてこない場合もある。住民や地域での気づきが行政であったり専門機関につながる仕組みづくりも必要になってくるのではないかと考える。



完成イメージ

系の人材は引く手あまたであり、確保することが非常に難しい状況なのか、精力的に各関係機関へ出向き説明会等を実施した成果である。また、人材育成についても町内外へ長期の研修へ派遣するなど、研修計画に沿った育成が順調に実施されていると感じた。

平成30年4月開所に向けては、まだまだ人材が不足しているとの報告も聞かれており、本年度には必要人員を確保し、スムーズな開所ができるよう期待するところである。

# 未来へ向けて充実

## まとめ

社会福祉法人は、地域における様々なニーズに幅広く対応することを基本的な役割としており、制度の狭間も含めて柔軟な支援を行うことを本来の役割として持っている。

平成26年4月に梶原町社会福祉協議会が設立されて4年目をむかえ、個々の活動状況においては、ある一定は住民の方々に浸透しているものと判断するが、一部の住民においては、社会福祉協議会がどんな活動をするのか未だ分かっていない方々がいるのも事実である。

ニーズ発見のアンテナを高くし、既存事業・活動の中から、また地域の関係機関等との情報交換の中から、ニーズの発見、気づきを意図的・積極的に行うとともに、最も地域の実情をよく知る住民との連携が重要である。また、相談窓口にたどり着かない人びとが多数いることも踏まえて、さら

なるアウトリーチ活動を強化していく必要がある。援助を受けることに前向きでない人、自らはニーズや課題を認識していない人達に対して積極的に働きかけていくためにも、地域に向いてニーズを発見することが重要な役割となってくる。

また、社会福祉協議会は様々な相談を受けるため、それらが組織内で共有されなかったり、集約・分析がなされないために次の展開に生かされないという問題にも生じかねない。どのような相談事項でもデータ化し、それらの内容を把握しながら進めることが重要となってくる。今後、これらも踏まえながら、社会福祉協議会のアウトリーチ活動、ニーズ発見機能をさらに強化することを求めるものである。

また、平成30年4月に開所予定である複合福祉施設の運営に向けては、準備室を中心とし必要人材の確保、職員の研修といった開所に向けての準備が着実にしつかりと行

われていた。今後においても、スムーズな開所ができるよう残された準備期間の中で効果的な研修を実施するとともに、運営計画をしつかりと定めるよう求める。

次に、開所に向けての施設整備についても調査を行ったが、現場設計事務所との連携が十分とは言えず、また現場も若干の遅れがあるとの報告を受けたが、来年2月末日の工期変更は絶対に許されないので体制の充実を図ることも併せて求める。

『すべては地域の笑顔のために』の基本理念のもと、地域福祉計画・地域福祉活動計画に基づき、今後も民生委員児童委員協議会との連携を密にし、しっかりとした地域福祉活動が実行されることを強く要望し報告とする。

### 構成委員

副委員長 二宮近雄  
委員 川上寿久  
委員 土釜清  
委員 市川岩亀



現場事務所において説明を受ける委員

## 全国森林環境税の創設に関する意見書

平成29年度税制改正大綱において、「市町村が主体となって実施する森林整備等に必要な財源に充てるため、個人住民税均等割の枠組みの活用を含め都市・地方を通じて国民に等しく負担を求めることを基本とする森林環境税（仮称）の創設」に関し、「平成30年度税制改正において結論を得る」と明記されたことから、森林・林業・山村対策の抜本的強化をはかるための「全国森林環境税」の早期導入を強く求める。

提出者 下元秀俊

賛成者 川上寿久、二宮近雄、中岡俊輔

市川岩亀、西川慶男

右記意見書を賛成全員で可決し、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、農林水産大臣、環境大臣、経済産業大臣及び県選出国會議員7人に意見書を提出した。

## 「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」第二条に規定する国の負担又は補助の割合の特例の継続等に関する意見書

北は四国山地に阻まれ、東西に長い地形を有し人口が偏在する高知県にとって道路整備は特に重要であります。地域の経済活動や災害時の物資輸送等を支える高速道路「四国8の字ネットワーク」から生活に密着した市町村道に至るまで、県土の隅々まで張り巡らされた道路の整備を着実に進めていく必要があります。

よって国におかれましては、国民の生活の質を高め、生命と財産を守り、未来につなぐための道路整備事業について、次の事項を確実に実施されるよう強く求めます。

1. 地域経済の活性化や防災力の向上に資する道路整備を推進し、安全安心な利用を確保するための修繕、老朽化対策などを計画的に進めるため、道路予算全体を拡大したうえで、必要な額を確保すること。

2. 「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」第二条に規定する国の負担又は補助の割合の特例については、平成30年度以降も継続すること。

さらに、地方創生のために真に必要な道路整備については、補助率等を拡充すること。

提出者 下元秀俊

賛成者 中岡俊輔、市川岩亀

右記意見書を賛成全員で可決し、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、国土交通大臣及び県選出国會議員7人に意見書を提出した。

あとがき

「町民に夢と感動をありがとう」

4対1 7対2 5対2  
4対1 3対7

いったいこの数字は何だろうか？実はこの数字、「第99回全国高校野球選手権大会」県予選の梶原高校が対戦した一回戦、二回戦、ベスト8、準決勝、決勝戦までの試合結果です。

梶原高校野球部は、生徒たちの熱意と学校、保護者、地域、行政、議会が一体となり「夢



円陣を組み、気合いを込める選手達

（梶原町田野々出身）野球部で、監督の目指す考え方の基本は「野球人である前に一人の人間であれ」の言葉をしっかりと身に着け、日頃から行動している結果だと思えます。例えて言えば、毎日の朝、昼、晩の礼儀正しい挨拶をはじめ、

の甲子園を目指し、2007年に創部された、まだ10年目の梶原高校野球部です。

この創部10年の若いチームが、監督と選手が一丸となり見事な集中力を発揮し、今年の夏は決勝戦まで勝ち進みました。何故か、ここまで戦えたその原点は指導教育にありと私は考えています。

梶原高校野球部は、町民の切望により3年前に監督に就任した「横川恒雄監督」が率いる



熱戦の始まり

地域美化推進活動の参加、冬になれば除雪作業など、部員全員の行動は輝いているように私には映っています。横川監督が思う心が部員たちにしっかりと理解できているからこそ、高知の代表格である明德義塾との決勝戦まで駒を進めたのではないのでしょうか。故に、今回このような指導方法が高く評価され、横川監督は平成29年度の全日本高校野球連盟から育成功労賞を授与されたのであることは事実を物語っていると思います。

者がいるならば、必ずや「夢の甲子園」が現実となる日も近いのではないかと実感できるようなになった今日この頃です。そして、必ずや多方面にも良い影響が出るものと確信をしています。勝ち負けの前に、町民に夢と感動をありがとう。これからも町民が一丸となり一生懸命応援しますので頑張ってください。さて、議員の任期も残り1年と6カ月となりましたが、議員の皆さん、次のベスト8に残るには何が必要でしょうか。



一糸乱れぬ入場行進

二宮近雄 記

# 閉会中の所管事務調査事項

各委員会は、12月定例会までの閉会中に、次の事項を調査します。

- 議会運営委員会 ・議会12月定例会の運営について
- 総務教育厚生常任委員会 ・消防について
- 産業建設常任委員会 ・産業振興について
- 議会広報編集委員会 ・議会広報の発行について

## 寄付のお礼

この度、次の方から「議会だより四万十源流」に対し寄付をいただきました。紙面をもってお礼とご報告を申し上げます。

- 神奈川県横須賀市 梶原 和矩 様
- 愛知県津島市 上田 徳吉 様

# 心のふれあい広場

## 四百年の歳月を数えて二十日念仏

今回は四百年以上にわたって越知面区に伝わる「二十日念仏」を紹介します。

二十日念仏は、慶長5年（1600）に没した津野家最後の領主親忠（孝山公）と慶長2年に

キリシタンとして住民の手により殺害された中越長左衛門正友を供養し、併せて弘法大師をお祀りするために慶長9年に始まったものと伝えられています。

津野孝山公の霊を慰めるために興った念仏の起



念仏の花形 跳び太鼓



二十日念仏の全体像

源は、町内各地に伝わる花取踊りや大念仏、三番叟などと類似していますが、二十日念仏の特徴は、中越長左衛門の供養を併せて行っているところにあると思われま

流行したことから「念仏を止めたからだ」とのことと復活して現在に至っているとのこと。役者は、大太鼓（大胴）、跳び太鼓、団扇組、鉦打の31人で構成されていますが、後継者不足の影響もあり、昭和46年から21人構成になっています。

今年の二十日念仏も、8月20日に千年杉がそびえる田野々の旧善福寺境内において、厳粛に執り行われました。

袴姿の区長、各部落代表者に加えて神官、僧侶が整列する中、「オヤクジュウ様ただ今から始めます。」と、跳び太鼓頭領の挨拶があり、念仏が始まります。

中央に大太鼓、東西に団扇組が別れ、北に跳び太鼓、南に鉦打が揃って、西の団扇組が「へんなもみ どうばい」の掛け

声を様々な口調で出し、受けといわれる東の団扇組が同じ口調で繰り返す。それに合わすかのように他の役者が太鼓や鉦を打ち鳴らしながら所作

を行って約30分間の念仏が続きました。

二十日念仏では、それぞれの役者のリーダー格を「頭領」といい、代々世襲的に代譲りが行われていたが、現在は各部落において継続されています。ちなみに、大太鼓は上本村、跳び太鼓は下本村、団扇組の出しは田野々、受けは永野、鉦打ちは太田戸となっています。念仏が終わると、当番がお酒をついで回ります。これにも順番があり、大太鼓、跳び太鼓頭領、鉦頭領、団扇出し頭領、受け頭領の順に回り、次いで跳び太鼓、鉦、団扇出し、受けの順で回ります。一巡すると跳び太鼓頭領がオヒラキの声をかけ、最後に主催者の区長が挨拶を行って念仏全ての行事が終了しました。

私も何年かぶりに念仏を拝見しましたが、メンバーが若返っており、後継者が順調に育っていることに感銘を受けました。

昨年立ち上げた集落活動センター事業としても保存継承に力を注いでいると伺いましたが、この二十日念仏が未来永劫に継続されることを願ってやみません。

関係者の皆様のご尽力に併せて、四百年以上の歴史の中で関わって来られた多くの皆様のご努力に敬意と感謝を申し上げます。合掌。  
川上寿久 記



二十日念仏関係者の皆さん